

げんき通信

風邪の漢方薬のお話

私たちの体には、病気を予防する免疫力や回復させる自然治癒力が備わっています。薬にはその力を助ける役割があり、風邪は90%以上がウイルス感染によるもので、ウイルスの種類によって、また、その人の体力や抵抗力の保持の程度によって、さまざまな病態が現れます。漢方医学では、ウイルスに感染するのはそれなりの不調があるからだと考え、体質や症状に応じた対応をします。

風邪の初期は鼻炎・咽頭炎・発熱・頭痛・悪寒などの症状が現れることが多く、この時期の漢方治療の原則は発汗療法です。主なものを紹介します。

【麻黄湯】体が丈夫で体力がある人や、病状が強い時に用います。こどもは成長期にあり活力があるので、この薬をよく使いますが、虚弱体質の子には適しません。当然高齢者には不向きです。麻黄・杏仁・甘草は咳や痰を抑え、桂皮は鎮痛に働き、

麻黄・桂皮の発汗作用により症状を改善します。汗が出ないような場合にこのむく、軽く汗ばんで熱が下がります。そのほか、

強い咳、腰や膝など関節の痛みにも効果的で、インフルエンザにも使われます。ただし、人によっては胃部不快感や食欲不振などが現れることがあるので注意が必要です。

【桂枝湯】体が弱くて体力がない人、胃が弱くて抗生物質や鎮痛剤などで胃腸障害を起こす人に使います。熱で自然に汗が出るような状態で、頭痛・悪寒を伴う場合に適しています。甘草・大棗・生姜の組み合わせは消化吸収機能を促進します。

【小青竜湯】症状が少し進んで、くしゃみ・鼻水・鼻つまりなどが主症状の場合に向



C O L U M N

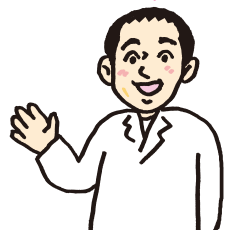
げんきコラム

お薬のめますか?



薬局店頭では、皆さまからさまざまなご相談があります。その中で目立つのは、薬がうまくめえないという事例です。おとなでも、カプセル・錠剤・粉薬、それぞれ苦手な方があります。特に高齢の方は薬の種類が多いので、のむのが苦痛になるという声もあります。薬の形や大きさを変えたり、口中で溶けるタイプにしたり、また、補助ゼリーやとろみ剤の利用など、いろいろな方法で薬剤師がお手伝いします。

気になることがあれば、かかりつけの医師・薬剤師に相談してください。



《西与賀店薬剤師/えがしら》

いています。

熱が上下して悪寒と発熱が交互に訪れ、食欲低下も現れるような風邪の中間期には、体内の調整を図る薬を選びます。その代表的なものが【小柴胡湯】で、体力が中等度で、悪心・嘔吐・咳などがある場合に用います。柴胡・黄芩には抗炎症・解熱作用があり、半夏・生姜が悪心・嘔吐を抑えます。さらに半夏・生姜・甘草には咳や痰を抑える働きがあり、人參・甘草・大棗は消化吸収を高めます。

漢方薬で気をつけたいこと

漢方薬は複数の生薬の組み合わせでできているので、不用意に重ねて使うと、同じ成分を多量に摂ってしまうことになり、麻黄の成分エフェドリンには交感神経興奮作用があり、興奮・高血圧・排尿障害・不眠などが見られることがあります。また、甘草に含まれるグリチルリチン酸は多量に服用すると、低カリウム血症・血圧上昇・浮腫などが現れることがあります。また、体質に合わないとうまく効果が得られません。漢方薬だから安心安全という思い込みはやめて、気になることがあれば、かかりつけの医師・薬剤師に相談してください。

処方せんはぜんぶ「くぼ薬局」におまかせください。すべての病院・医院の処方せんを受け付け責任を持って調剤いたします。

あなたのまちのくすり箱



●中町店 ☎26-2817 FAX 28-0802 ●木原店 ☎24-2233 FAX 24-4227 ●中の小路店 ☎24-2882 FAX 24-4503

●西与賀店 ☎22-2311 FAX 29-2777 ●北茂安店 ☎0942-89-1777 FAX 89-1888 ●医大通り店 ☎32-1133 FAX 21-1344

●本部：県庁通り店 ☎23-4550 FAX 26-8585